

授業科目名	現代芸術論 1	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次前期	単位数	4単位
授業の到達目標及びテーマ 秋田公立美術大学の 5 つの専攻のそれぞれのコンセプトや特色を総合的に知ることによって本学が目指す新しい表現の形を論理的に学ぶ。 美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。			
授業概要 5 つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。各専攻の基本的なコンセプトや特色を学んでいくが、それだけではなく専攻同士で重なる考え方や専攻を超えた考え方も同時に学んでいく。 シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。			
授業計画 第 1 回 授業全体の概要（ガイダンス）と 5 専攻の紹介 第 2 回から 26 回までは 5 専攻の教員がそれぞれ 5 回の授業を担当します。 ※それぞれの専攻が受け持つ日程については年度によって変わることがあるため別途資料でお知らせします。 5 回分 アーツ&ルーツ 歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について 5 回分 景観デザイン 地域文化に裏打ちされたランドスケープについて 5 回分 ものづくりデザイン 使用感の充足を生み出すデザインについて 5 回分 ビジュアルアーツ 現代における表現の社会的意味と価値について 5 回分 コミュニケーションデザイン メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について 4 回分 領域を超えた新しい表現 外部講師などによる授業			
履修上の注意 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
テキスト 「ニッポン現代アート」高階秀爾 著（講談社 刊）			
参考書・参考資料等 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
学修成果の評価方法 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	現代芸術論 2	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1年次後期	単位数	4単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>「現代芸術論 1」で学んだ秋田公立美術大学の 5 つの専攻のコンセプトと本学が目指す新しい表現の形をさらに発展的に学んでいく。</p> <p>美術・デザイン・工芸・景観など多様な表現の基礎的な知識を得ることで、今後自分自身が表現を行う上での土台となる考え方を身につける。</p>			
授業概要			
<p>5 つの専攻に所属する教員がオムニバスで授業を行う。「現代芸術論 1」で学んだ知識や経験を下地としてそれぞれの分野についてさらに深く学んでいく。また、既存の表現のジャンルを超えた新しい表現について考察できるようになるために基礎的な課題などを伴いながら学んでいく。</p> <p>シラバスに掲載されている教員だけではなく学内外でそれぞれの分野で活躍する方にも授業を行ってもらい、さらに広い知識の習得を目指す。</p> <p>また授業の後半では 3 年次以降に選択するそれぞれの専攻の特色を紹介する。</p>			
授業計画			
<p>現代芸術論 2 では 5 専攻の教員がそれぞれ 4 回の授業を担当します。</p> <p>※それぞれの専攻が受け持つ日程については年度によって変わることがあるため別途資料でお知らせします。</p> <p>4 回分 アーツ&ルーツ 歴史や文化（ルーツ）をベースにした芸術表現（アーツ）について</p> <p>4 回分 景観デザイン 地域文化に裏打ちされたランドスケープについて</p> <p>4 回分 ものづくりデザイン 使用感の充足を生み出すデザインについて</p> <p>4 回分 ビジュアルアーツ 現代における表現の社会的意味と価値について</p> <p>4 回分 コミュニケーションデザイン メディアの進化によるコミュニケーションデザインの変化について</p> <p>5 回分 領域を超えた新しい表現 外部講師などによる授業</p> <p>第 26 回 専攻の紹介 アーツ&ルーツ</p> <p>第 27 回 専攻の紹介 景観デザイン</p> <p>第 28 回 専攻の紹介 ものづくりデザイン</p> <p>第 29 回 専攻の紹介 ビジュアルアーツ</p> <p>第 30 回 専攻の紹介 コミュニケーションデザイン</p> <p>※26-30 回の専攻紹介の順番は年度によって変わることがあります。</p>			
履修上の注意 秋田公立美術大学で学んでいく上での土台となる授業です。1 年次に単位を修得するように努力すること。この授業のためのノートを一冊用意すること。			
テキスト			
参考書・参考資料等 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
学修成果の評価方法 授業への取り組み 40% 課題（提出物）の成果 60%			

授業科目名	現代芸術演習 (アーツ&ルーツ)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—総合科目		
履修区分	選択必修科目	授業形態	演習 (オムニバス)
配当年次・学期	2年次後期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>本授業では数名のグループによるフィールドワークを実施し、それを元に各個人が主題の設定から作品の制作までの過程を体験する。主題に適した素材や表現方法を選び、フィールドワークや文献調査に基づく考察を深めることで、自らの適正を探索する授業である。作品制作だけで終わらず、展示とプレゼンテーションまで行うことを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>制作のテーマはフィールドワークや文献調査を通して設定する。フィールドワークはグループ単位で行うものとし、その機会に適宜スケッチ、写真撮影、聞き取り調査などを行いながら個人制作のためのプランニングを実施する（作品制作は個人で行う）。制作物の手法などは特に限定しないが、個人制作の主題は担当教員とのミーティングのうえで決定する。作品展示とプレゼンテーションまでを評価の対象とする。</p>			
授業計画			
第1回	ガイダンス／調査方法の概要、考え方について（グループ決め）		
第2回	テーマ設定 テーマのプレゼンテーション		
第3回	テーマを元にしたフィールドワーク		
第4回	テーマを元にしたフィールドワーク		
第5回	フィールドワークを元にした作品プランの作成		
第6回	作品プランのプレゼンテーション		
第7回	作品の制作		
第8回	作品の制作		
第9回	作品の制作／経過報告（中間講評）		
第10回	作品の制作／経過報告（中間講評）		
第11回	作品の制作		
第12回	作品の制作		
第13回	作品の制作		
第14回	作品の展示・設営		
第15回	講評		
*フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。			
*作品制作には材料費が必要です。			
*フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			
学生に対する評価 講評ならびに完成作品、授業への取り組みにより総合的に採点する。			

授業科目名	素描表現演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—導入科目		
履修区分	必修科目	授業形態	演習（オムニバス）
配当年次・学期	1年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>この授業では、創作活動の基礎としてのデッサンの意義を伝えるとともに、鉛筆による細密表現を通して、創作に必要な観察力、分析力を強化し、モチーフの細部と全体の関係を感じ取る能力を習得することを目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>身近な植物をよく観察し、葉書用紙に線描で表現する。</p> <p>デッサンの創作活動や将来設計における意義をテーマとした講義を行う。</p> <p>各自が持参したモチーフ（自然物）の構造や特徴を理解するために、スケッチやカメラ撮影を行う。そこで深めた観方を踏まえ、鉛筆による陰影のある細密描写作品を制作する。</p>			
授業計画			
第1回	ガイダンス（授業の目的、進め方について）		
第2回～第4回	葉書用紙に植物の細密線描写 ※25枚以上を提出		
第5回	ケント紙のパネル水張り		
第6回～第7回	デッサンの実技を伴う講義		
第8回～第14回	モチーフ（自然物）のスケッチやカメラ撮影等による観察 鉛筆による作品の制作		
第15回	講評		
<p>※ 各学生の資質や目標に合わせて計画を変更する事があります。</p> <p>※ 授業時間以外でも制作を進めてもらいます。</p>			
履修上の注意			
<p>デッサン用具、葉書用紙、ケント紙、B3 パネル、水張り用具、拡大鏡を準備する</p> <p>※葉書用紙、ケント紙、B3 パネルは購買で販売</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
なし			
学生に対する評価			
葉書線描40点 細密描写作品60点			

授業科目名	アーツ&ルーツ導入演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	8単位
授業の到達目標及びテーマ 本授業はアーツ&ルーツ専攻専門科目の導入科目である。フィールドワークや文献調査など新しい新たな知見を得ることに重点をおく。 またフィールドワークや作品制作をグループで行うことで自分自身や他者の特性を知ることにも授業のテーマの一つである。グループワークを行うことで個人の能力を超えた成果物を作ることが最終の目標となる。			
授業概要 学生を数人のグループに分け授業を進める。グループによるフィールドワークや文献調査などを行い、得られた新たな知見を元に課題を設定しグループによる作品制作を行う。フィールドワークなどの調査で得られた成果に対してのレポート作成やそのプレゼンテーションも行なってもらふ。最終的には調査を元にした作品をグループごとに制作し発表を行う。 本授業は、「アーツ&ルーツ基礎演習」、「アートプロジェクト演習」、「アーツ&ルーツ応用演習」、へと段階的に進んでいく。			
授業計画 第1回 授業の概要や日程についてのガイダンスとグループ分け 第2-7回 グループごとに行うフィールドワークの方向性の考察 第8-12回 フィールドワーク先の決定、および、その調査内容や方法について 第13-33回 学外でのフィールドワークや文献調査など。 第34-38回 フィールドワークや調査についてのレポートを作成 第39-40回 レポートプレゼンテーション 第41-43回 レポートを活かした作品のアイデアスケッチ 第44-53回 マケット、下図等制作 第54-55回 使用する素材や技法に分かれ、道具や設備についてガイダンスを実施する。 第56-59回 材料の準備、道具づくり 第60-75回 本制作開始 第76-118回 本制作 第119-120回 完成作品展示、プレゼンテーション 講評 ＊ 作品制作には材料費が必要です。 ＊ フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。 ＊ フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			
学修成果の評価方法 プレゼンテーションや講評と授業への取り組み、完成作品を総合的に評価します。			

授業科目名	アーツ&ルーツ基礎演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	6単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>「アーツ&ルーツ導入演習」ではグループごとにフィールドワークや課題を行ったがこの授業はそのプロセスを個人で行う。各自の興味のある主題や媒体に応じたプロジェクトを立ち上げ、そのプロジェクトの中で調査・研究・作品制作・発表を行う方法を学んでいく。計画段階、途中経過、最終発表時のプレゼンテーションの方法を学んでいくことも目標となる。</p>			
授業概要			
<p>各自、フィールドワークや文献調査やなどで得られた知見や自身の興味を元に課題を設定する。その課題に対してプロジェクトを立ち上げる。そのプロジェクトの一環として調査・研究と作品の制作と発表を行う。</p> <p>調査するテーマは「ルーツ」に関するものを主とする。ルーツとは地域のものでも個人のものでも構わない。例えば、縄文時代の遺跡、民話や説話、来訪神儀礼や修験芸能、里山・里海の生活文化から現代の社会課題などまで幅広く対象とする。</p>			
授業計画			
第1回 授業の概要や日程について（ガイダンス）			
第2-5回 調査・研究対象となる分野の考察			
第6-10回 調査・研究対象の決定			
第11-20回 調査内容や方法についてのプレゼンテーション			
第21-24回 調査・研究対象へのフィールドワークや文献調査			
第25-27回 調査・研究結果のプレゼンテーション			
第28-32回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映したさらなる調査・研究			
第33-35回 プロジェクト内容についての資料作成			
第36-44回 プレゼンテーション			
第45-84回 作品の作成			
第85-87回 作品の展示			
第88-90回 プレゼンテーション 講評			
* フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。			
* 作品制作には材料費が必要です。			
* フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 参考になる作品集・論文集・映像等を随時紹介していく。			
学修成果の評価方法 授業への取り組み方、研究成果をみて総合的に判断します。			

授業科目名	アーツ&ルーツ応用演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－アーツ&ルーツ専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次前期	単位数	8単位
授業の到達目標及びテーマ 3年次までの授業で積み重ねてきた各自の研究対象などをプロジェクトとして展開する。そのプロジェクト内で調査・研究・作品制作・発表を行う。またプロジェクトの計画書の作成も重要な学びの要素となる。			
授業概要 各自が立ち上げたプロジェクトの計画書を作成し、そのプレゼンテーションを行う。プレゼンテーション時に得られたアドバイスを元に計画書を修正しプロジェクトを展開していく。プロジェクトとして自身の興味関心のある分野に対しての調査・研究を行い、それを元に作品制作を行う。最終的には作品の完成の後に展示発表までを行う。			
授業計画 第1回 授業の概要や日程について（ガイダンス） 第2-8回 各自の研究対象の考察 第9-10回 研究対象を元にしたプロジェクトの立案と計画書の作成 第11-15回 プロジェクト計画のプレゼンテーション 第16-22回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映したさらなる調査・研究 第23-26回 計画書の修正 第27-30回 修正された計画書のプレゼンテーション 第31-52回 プロジェクトのための制作物のマケット制作、下図等制作 第53-60回 作品制作のための材料の準備、道具づくり等 第61-105回 作品制作 第106-107回 作品の展示 第108-117回 作品のプレゼンテーション 第118-120回 ディスカッション（現代の美術における自作の位置付けを探る） ＊ 作品制作には材料費が必要です。 ＊ フィールドワーク時には交通費等の諸費用がかかる場合があります。 ＊ フィールドワークや制作の過程で適宜、プレゼンテーションや講評を行います。			
履修上の注意 各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 参考になる作品集や論文集を随時紹介していく。			
学修成果の評価方法 授業への取り組み方、研究成果をみて総合的に判断します。			

授業科目名	卒業研究 (アーツ&ルーツ専攻)	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－卒業研究科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4年次後期	単位数	10単位
授業の到達目標及びテーマ 卒業研究は4年間の集大成とする。学生自身がこれまでの専攻専門科目で学んだ技術や知見をもとに、プロジェクトの立案から作品の制作計画、調査計画、プレゼンテーション（展示計画）方法を定める。そこで、自分自身の活動に必要な計画性、実行力の基礎を築くことを目標とする。卒業後もさまざまな分野で活動をしていくための土台となる作品制作をめざす。			
授業の概要 みずから課題を設定し、目標を実現するための方法論を獲得するため、四年間の学びを踏まえた総合的なガイダンスを実施する。卒業研究の期間に中間講評と卒業研究審査講評をおこなう。全期間を通じて、専攻所属の教員全員で指導にあたる。作品メディアはそれぞれの学生の制作テーマに適した多様なメディアを使用する。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2-10回 研究対象の考察 第11-15回 研究対象を元にしたプロジェクトの立案と計画書の作成 第16回 プロジェクト計画のプレゼンテーション 第17-41回 プレゼンテーション時のアドバイスを反映した調査・研究・作品の制作 第42回 中間講評会（作品のプレゼンテーションとディスカッション） 第43-149回 作品制作 第150回 卒業研究審査講評会			
履修上の注意 材料費が別途必要。フィールドワークを行う場合交通費などの諸経費が別途必要。各学生の資質や目標に応じて、授業計画を柔軟に運用することがあります。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 随時			
学生に対する評価 ／ 卒業研究の全体を通じて総合的に評価する。ただし、講評会（臨時を含む）などへの出席は必修			

授業科目名	日本画演習	担当教員名	
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－専門基礎科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2年次前期	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ この授業では日本画の実技とともに日本の絵画の歴史と材料についての講義を行い、総合的に日本画への理解を深める。実技では基本技法を学びながら作品を製作することで下絵から着色、完成までの日本画の一連の制作工程を体験する。日本画表現の基礎を学ぶことで今後のさらなる独自の表現のための土台を作る。			
授業の概要 材料の講義では墨、顔料などの色料・膠などのメデューム・和紙や絹などの基底材などの特色を学ぶ。日本絵画の歴史については特に近代日本で「日本画」というジャンルが出来上がった経緯などを中心に学んでいく。 実技では最初に、模写等を通じて古典技法である線描、垂らし込みなど墨による表現を学ぶ。次に小品の制作を行う。ここではモチーフの観察や描写、写生をもとに、日本画の基礎的な技法を教授する。 日本画に特有の材料の扱い方や基礎的な日本画技法を写生のプロセスを通して、自然形態の把握と描写力の向上を目指す。			
授業計画 第1回 導入・授業内容と日本絵画の歴史「日本画の成立について」 第2回 材料等の解説 第3回 水墨画 運筆（墨の線による表現）、ぼかし、滲み、たらしこみ、古典作品の模写などにより墨による表現を学ぶ 第4回 小品制作の準備と構図に関して 墨または鉛筆等によるスケッチ/小下絵（スケッチを下絵におこす） 第5回 小品制作1 下絵写し、骨描（墨による下描き） 第6回 小品制作2 下地 胡粉の作り方など/胡粉等の下塗り 第7回 小品制作3 着色 日本画の絵具の作り方と実際の作品への着色 第8回 小品制作4 着色 薄い色、細かい色などの彩色 第9回 小品制作5 着色 薄い色、細かい色などの彩色 第10回 小品制作6 着色 中間色の彩色 第11回 小品制作7 着色 中間色の彩色 第12回 箔の実習 箔（金箔、銀箔、銅箔など）の技法の解説と実習 第13回 小品制作8 実際の作品への着色 濃い色、荒い色の彩色 第14回 小品制作9 実際の作品への着色 線描などの仕上げ 第15回 合評 完成作品の評価とアドバイス ※授業外でそれぞれに課題を進めてもらう必要があります			
履修上の注意 日本画材料の購入が必要となります。			
テキスト 日本画の技法書などのコピーを適宜配布。			
参考書・参考資料等 参考になる日本画の図録などを適宜紹介していく。			
学生に対する評価 講評の時点での作品の完成度を50点満点で採点し、授業への取り組みを50点満点で採点する。その二つの合計100点満点を学生の成績とする。			